

第3回 NPO法人会計講座

令和元年 8月

夏真っ盛り！暑いですね・・・

皆様、こまめに水分をとって、熱中症対策に気をつけて下さい。

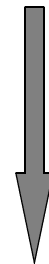
では、**第3回目**に入ります。よろしくお願いします！！

今回は

「損益計算書」について御説明いたします！！

損益計算書は、こういうものです↓↓ （縦に流し読みしてください☆）

1	売上高		2,000円
2	売上原価	▲	400円
	売上総利益		1,600円
3	販管費	▲	700円
	営業利益		900円
4	営業外収益		300円
5	営業外費用	▲	200円
	経常利益		1,000円
6	特別利益		150円
7	特別損失	▲	100円
	当期純利益		1,050円



縦に流れる

売上高をスタートにして、それにいろいろな費用や収益を足したり引いたりして、最後に差し引きの利益（もしくは損失）が残ります。

そもそも・・・損益計算書って、何のためにあるんでしょうか??

第1回目で申し上げたとおり、損益計算書って「**通知表**」なんです。

ちょっと会計学的にいうと、前期の「**経営成績**」を、法人の様々な「**利害関係者**」に見てもらおうための書類なんです。（カッコいい言い方!）

例えば、損益計算書の一番下を見て下さい。

当期純「利益」(←1,050円)となっていますよね☆

この情報だけでも、この法人の前期の成績は「黒字」だった(成績が良かった☆)ということが分かります。

これが、マイナスだった場合は、前期「赤字」(成績が悪かった↓↓)ということが分かります。

例をまじえて説明しますと！！

次にお示しするのは、ある法人の平成29年度の損益計算書と平成30年度の2ヶ年度分の損益計算書です。

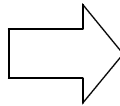
2ヶ年度分を見比べてみて下さい！ 最終利益はどう推移していますか？

♪一番下の欄をみるんですよ～

平成29年度 損益計算書

(単位：円)

科目	金額	
売上高		4,000
売上原価		▲ 2,500
売上総利益		1,500
販売費及び一般管理費		
給与	500	
家賃	200	
水道光熱費	100	▲ 800
営業利益		700
営業外収益		
受取利息	400	400
営業外費用		
支払利息	150	▲ 150
経常利益		950
特別利益		
土地売却益	500	500
当期純利益		1,450



平成30年度 損益計算書

(単位：円)

科目	金額	
売上高		4,000
売上原価		▲ 2,500
売上総利益		1,500
販売費及び一般管理費		
給与	500	
家賃	1,700	
水道光熱費	100	▲ 2,300
営業利益		▲ 800
営業外収益		
受取利息	400	400
営業外費用		
支払利息	150	▲ 150
経常利益		▲ 550
特別利益		
土地売却益	500	500
当期純利益		▲ 50

見てのとおり、平成29年度は1,450円の黒字だったのに、平成30年度は50円の赤字になっています。

・・・ということは、差し引き1,500円の利益のダウンということになりますね。

平成29年度に比べて、平成30年度はかなり成績が悪くなったということが分かりますよね。

ここで皆さん！

もう一步踏み込んで、なぜ成績が悪くなったんだろう??って思いませんか？
皆さんも成績が良かったり、悪かったりするのには、

今回は試験直前に見たものが、たまたま出たからラッキーだった～。とか
テレビゲームのしすぎで勉強しなかったもんなあ～とか、理由がありますよね。

もう一度、2ヶ年度分の損益計算書を比較していただくと、ある項目だけが、増えて
います。(どれでしょう・・・。あえてある項目以外は同額に作っております。)

そうですね・・・「家賃」ですね。

損益計算書を比較すると、なるほど、家賃が高くなったから赤字になったんだね
ってところまで分かるわけです。

ここから先は、契約更新で家賃がアップしちゃったのかな？
家賃が高いところに移転したのかな??

移転したとすれば・・・

売上高の増加が見込める立地に移転した? → ということは、前期は赤字
だったけど、次期の損益計算書では売上高が大幅アップが予測されるかも？

とか

単に見栄で地価の高いところに移転したのかな?・・・放漫経営??

とか

いろいろな考察に繋がっていくわけですが、

損益計算書を見たから、原因（この例では家賃）に着目できて、法人をとりまく
経営状況をより深掘りして考察できるのです。

今のは、簡単な例で説明しましたが、銀行員や税理士の先生など、プロフェッショナル
な方々は、この損益計算書という一つの「通知表」から、プロの目で複合的にさまざまな
法人の経営状況をキャッチすることができるのです！！

今度は、2社の損益計算書を用いた比較分析です。

(株)藤原 平成30年度損益計算書

(単位：円)

科目	金額	
売上高		4,000
売上原価		▲ 2,500
売上総利益		1,500
販売費及び一般管理費		
給与	500	
家賃	200	
水道光熱費	100	▲ 800
営業利益		700
営業外収益		
受取利息	400	400
営業外費用		
支払利息	150	▲ 150
経常利益		950
特別利益		
土地売却益	500	500
当期純利益		1,450

(株)吉本 平成30年度損益計算書

(単位：円)

科目	金額	
売上高		4,000
売上原価		▲ 2,000
売上総利益		2,000
販売費及び一般管理費		
給与	500	
家賃	200	
水道光熱費	100	▲ 800
営業利益		1,200
営業外収益		
受取利息	400	400
営業外費用		
支払利息	150	▲ 150
経常利益		1,450
特別利益		
土地売却益	500	500
当期純利益		1,950

先ほどは、ある法人の2ヶ年度の損益計算書を比較しましたが、今度は同業他社の(株)藤原と(株)吉本を比較します。(どちらも小売店とイメージして下さい。)

2社の当期純利益は、(株)藤原が1,450円、(株)吉本が1,950円と、(株)吉本に軍配が上がっているわけですが、理由は分かりますか・・・？

・・・そうです売上原価に違いがあります。

(ここでは、販売数・従業員数など、そのほかの項目は2社とも全く同じと仮定して下さい。)

同じ売上高なのに、(株)吉本の方が500円も低い原価だったのです。

販売した商品の調達コストが安い・・・(株)吉本の方が調達力が優れているということが分かるわけです。

このように、損益計算書があれば

- ・ 数過年度の推移の比較
- ・ 同業他社との比較

をすることで、より深く経営成績を分析することができるのです。

損益計算書を用いて、利害関係者は、その法人の経営成績を分析しますし、法人自身も自己分析を行い、次期の経営につなげていくのです。

今回は、損益計算書ってこういうものなんです・・・という話をしました。

次は、損益計算書の説明（パート②）に入っていきたいと思います！

どうもお疲れ様でした！

（一口メモ） 企業の利害関係者とは・・・

企業の利害関係者には株主や債権者、従業員、消費者、行政（主に税務署）など、企業を取り巻く様々な主体が含まれます。

お疲れ様でした～♪

